

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 美術学部、美術研究科	3
2. 音楽学部、音楽研究科	6
3. 映像研究科	9
4. 国際芸術創造研究科	12

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
美術学部、美術研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【3】	高い質にある
音楽学部、音楽研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【4】	特筆すべき高い質にある
映像研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【4】	特筆すべき高い質にある
国際芸術創造研究科	【3】	高い質にある	【4】	特筆すべき高い質にある

1. 美術学部、美術研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

クローン文化財制作の基盤技術となる特許が、平成 29 年度全国発明表彰 21 世紀発明奨励賞を受賞し、クローン文化財に係る研究・振興を主導してきた教員が、平成 30 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において科学技術賞（科学技術振興部門）を受賞している。また、令和元年度には、葛飾北斎による「夢多字画尽：北斎画指南」などの、附属図書館が所蔵する江戸時代以前の古典籍を、国文学研究資料館の協力によりデジタル化し、Web 上で一般公開している。

〔優れた点〕

- 令和元年度に、東京芸術大学附属図書館が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）について、国文学研究資料館の協力によりデジタル化し、Web 上での一般公開を開始した。今回公開された資料の中には、江戸時代後期の画家・美術史家で、幕府の御絵番掛りも務めた朝岡興禎（1800-1856）による日本画人伝『古画備考』の自筆原本、葛飾北斎（1760-1849）による文字絵の教材『夢多字画尽：北斎画指南』、江戸歌舞伎の興行案内で出演する役者名や演目などが記された紋番付（役割番付）を合わせて綴った『戯場年浪草』全 45 冊、歌舞伎役者の技芸などの批評書である『役者評判記』等が含まれている。『古画備考』は、日本の古代から江戸時代末期にわたる絵画の作者に関する資料を集めたもので、日本絵画史の基礎資料として重要な書物である。
- 「クローン文化財」制作の基盤技術となる特許については、文化財複製の品質を飛躍的に向上させ、古くからの課題である「保存と公開」というジレンマの解消に成功したもので、経年劣化や破壊が進む文化財の複製や修復技術の伝承に資するだけでなく、教育・観光分野での活用、文化外交・アートビジネスへの展開など、今後の活用可能性に国内外から大きな期待が寄せられており、平成 29 年度全国発明表彰「21 世紀発明奨励賞」を受賞する快挙を達成した。加えて、COI 拠点事業において主としてクローン文化財に係る研究・振興を主導してきた教員が、平成 30 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、科学技術賞（科学技術振興部門）を受賞した。

〔特色ある点〕

- 平成 28 年度より「国際文化財保存修復プロジェクト室」を立ち上げ、①文化

財の技法・材料に関する研究、②文化財の保存修復に関する技術開発、③文化財のアーカイブに関する研究を学内外の様々な組織との連携により推進している。

代表的な取組として、日本国際協力センター（JICE）と共同企業体を設立し、国際協力機構（JICA）より平成 28 年 11 月から 3 ヶ年計画の「大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト」を受託し、大エジプト博物館保存修復センターの保存修復・保存科学の専門家と日本人専門家とが合同で対象遺物の調査、移送、保存修復を行うことで、人材育成および技術移転を図ることを目的とした活動を実施した。

- 平成 29 年度より、「美術と教育」の現状と未来をテーマとした「全国美術・教育リサーチプロジェクト」を開始し、幼稚園から大学まで、全国で実践されている美術教育をリサーチし、創意工夫あふれる多くの「美術の授業」の具体的内容と成果作品を一同に集め公開するとともに、リサーチ結果のデータベース化を進めた。令和元年度には、10 月から 11 月にかけて東京芸術大学の大学美術館で開催した展覧会では、期間中に様々な分野の美術教育関係者、有識者を招いて美術教育をテーマとした公開討論やシンポジウムを開催した。入場者数は約 4,500 名を数え、月刊『教育美術』（令和元年 10 月号）ほか様々な美術・教育系媒体で紹介され、美術教育の現状と未来に対する関心の高さを改めて浮き彫りとした。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2 件、11 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「不完全-パラレルな美術史」及び「金属工芸の素材・技法の新しい表現の可能性」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。

2. 音楽学部、音楽研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 7)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

クラウドファンディング等により研究資金を集め、戦没学生の音楽作品の調査・発掘及びコンサートの開催に係る取組を実施し、『戦時音楽学生 Web アーカイブズ「声聴館」』を開設している。また、デジタルアーカイブ化された東京芸術大学での演奏会の音源・映像を、高音質ハイレゾ音源でオンデマンド配信している。さらに、義務教育段階からより専門的に音楽を勉強することを可能にする新しい教育システムとして、中学生を対象とする東京藝大ジュニアアカデミーを開講している。

〔優れた点〕

- 平成 30 年度、ASEAN 諸国の芸術系大学との連携プロジェクトとして、タイのシラパコーン大学やベトナムの国家音楽院との国際共同プログラムを実施し、その成果をバンコクにおける東南アジア音楽教育学会；SEAMEX（Southeast Asia Music Education Exchange）やハノイにおける国際共同コンサート等で発表し、現地メディア等にも取り上げられた。
- 平成 29 年度より、クラウドファンディング等により研究資金を集め、「戦没学生の音楽作品の調査・発掘およびコンサートの開催」に係る取組を進め、太平洋戦争で戦地に赴き、命を落とした音楽学生の作品を発掘・調査し、現代によみがえらせ、志半ばで戦地へ行かざるを得なかった彼らの遺言ともいえるメッセージをコンサートやパネル展示で多くの人に届けた。また、国内外の幅広い方々に末永く活用されるアーカイブとして、令和元年度に『戦時音楽学生 Web アーカイブズ「声聴館」』を開設した。
- 平成 29 年度より、音楽分野における教育研究成果の発信及び音楽文化の更なる普及を目的として、民間企業と提携し、デジタルアーカイブ化された音楽学部、音楽研究科での演奏会の音源・映像を、高音質ハイレゾ音源（PCM96kHz/24bit または 48kHz/24bit）で無料オンデマンド配信するという、大学では世界初となる取組を実施している。音楽総合研究センターにおいて、シモン・ゴールドベルク文庫や小泉文夫記念資料室等を設け、蔵書・楽譜・録音資料・プログラム・楽器・雑誌・音響・映像・写真・民族衣装等を所蔵・整理し、広く研究資料として公開している。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年度、早期教育リサーチセンターを創設し、音楽における早期教育に関する研究及びその成果に基づく教育を推進している。小中学生を対象とした早期教育プロジェクトについて、平成 28 年度から令和元年度に計 60 回以上を全国各地で開催し、また、平成 29 年度より、義務教育段階からより専門的に音楽を勉強することを可能にする新しい教育システムとして、中学生を対象とする「東京藝大ジュニア・アカデミー」を開講している。
- 平成 28 年度、順天堂大学と包括連携協定を締結し、音楽セラピー等の共同研究の推進など、医学・医療と芸術の融合および相乗効果の最大化を目指した取組を進めている。令和元年度には、合同公開シンポジウム「医療と芸術の融合をめざして」を開催した。生と死に携わる医療現場こそ、感性や美意識によるこころの価値観を取り入れるべきではないかという両大学の思いから企画され、医療現場で必要とされている芸術とは何か、また芸術に携わる者が医療になにを提供できるのかを、それぞれの立場からアプローチした。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、5 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、特筆すべき高い質にあると判断した。

室内オペラ「亡命」等の作曲により、平成 30 年度（第 75 回）日本芸術院賞を受賞している「今日の音楽作品における構成、時間的構造が持ち得る多様性について」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。また、日本におけるハンガリークラシックの知名度の促進及び二国間の音楽と音楽教育交流の普及・促進させたピアノリサイタルにより、平成 30 年ハンガリー国功労勲章オフィサー十字型を受章している「リスト及びバルトーク作品の演奏研究」も、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。

3. 映像研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 10)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 11)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

イランとの国際連携の取組を実施して、平成 30 年度に映画「ホテルニュームーン」を映像研究科の教員が監督等を務めて制作し、第 37 回ファジル国際映画祭に出品している。この業績に対して、外務大臣表彰及び日本映画ペンクラブ特別功労賞を受賞している。また、ゲームの要素をサービスやシステムに応用し利用者のモチベーションや満足度を向上させるゲーミフィケーションの視点から、ヘルスケアの分野において、研究開発を民間企業と共同で行い実用化に向けた取組を進めている。

〔優れた点〕

○ イランとの国際連携による研究活動として、平成 30 年度に映画「ホテルニュームーン」を映像研究科の教員が監督等を務めて制作し、第 37 回ファジル国際映画祭に出品している。本作品は、東京芸術大学の教員が長期的な視野に立って日本とイランとの国際関係を築いたことによって実現したものであり、文化交流に基づく国際共同制作の実践事例として特筆すべきことであり、映画分野での両国の友好親善関係に多大な貢献をしたことに対し、平成 30 年度に外務大臣表彰を受けており、加えて同年度に、日本映画ペンクラブの特別功労賞も受賞している。

〔特色ある点〕

- ゲーミフィケーションとは、ゲームの要素をサービスやシステムに応用し利用者のモチベーションや満足度を向上させる手法である。ゲームをクリアする感覚で学習提案する子供向けの教材などがその一例で、ヘルスケアの分野においても、ゲームの要素を取り入れて社会的課題を解決するサービスが注目を集めている。Health Mock Lab. では、課題解決の新しいアイデアについて、横浜市立大学が医学的な視点、東京芸術大学がゲーミフィケーションの視点、民間企業がビジネスの視点から共同でスクリーニングとブラッシュアップを行い、研究開発、試作品の制作、実証試験など、実用化に向けた取り組みを進めていく体制を構築している。
- 平成 31 年 4 月には、大学院映像研究科に「ゲームコース」を創設した。同コースでは、ゲームを新しい芸術領域と位置付け、研究や作品制作を通してゲームの可能性や映像表現のフィールドを広げることに貢献し、また、教育や医療

分野などの社会的な課題に対しても、ゲームを通じた新しいアプローチで取り組むことで「ゲーム」という定義を幅広く捉え直し、多様性と可能性をもたらすことを目指している。

- 平成 29 年度に、民間企業及び南カリフォルニア大学 (USC (米国)) の映画芸術学部ゲーム&インタラクティブ専攻との連携により、「東京芸術大学ゲーム学科 (仮) 展」を開催し、10 日間で 3,045 名の来場者を得た。産学協働によりアニメーションからゲームに発展させた学生・修了生の作品やゲーム制作プロセスを紹介する展示、民間企業の制作者及び USC 教授の招聘による専門性の高い実践的な講義やワークショップ、音楽学部学生との連携によるゲーム音楽コンサートを実施するなど、総合芸術としてのゲーム分野を広く一般に発信した。また、平成 30 年度に『東京芸術大学ゲーム学科 (仮) 「第 0 年次」』展を開催したほか、制作したゲーム作品等について、Web サイトにおいて公開している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

【判定】 特筆すべき高い質にある

【判断理由】

社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、4 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、特筆すべき高い質にあると判断した。

特に、日中韓文化大臣会合や ASEAN+3 文化大臣会合における合意事項等に基づく事業として毎年度実施している「東アジア・ASEAN 諸国における映像教育拠点の形成および実践的な映像教育メソッドの確立」は、参加者の技術レベルやコミュニケーションスキルに合わせてプロジェクトの内容を変え、参加した学生と講師のフィードバックと意見をもとに教育手法を分析・考察しており、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。

4. 国際芸術創造研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 13)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 14)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

日仏両政府の協力の下フランスで実施された日本文化紹介事業「ジャポニスム 2018」の一環である「深みへ - 日本の美意識を求めて -」展において、国際芸術創造研究科教員がキュレーターを務めている。また、文化庁による大学向け助成事業を複数受けるなど、多数の研究資金を獲得している。

〔優れた点〕

- 平成 30 年度、日仏両政府の協力の下フランスで実施された大型日本文化紹介事業「ジャポニスム 2018」の一環である「深みへ - 日本の美意識を求めて -」展において、国際芸術創造研究科の教員がキュレーターを務めた。同展覧会は、多くのフランスの観客を魅了し、現地の TECHNIART 誌では、平成 30 年展覧会トップ 10 の中で第 2 位の評価を得た。

〔特色ある点〕

- また、平成 28 年度から平成 30 年度に、文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」による助成を受け「グローバル時代のアートプロジェクト (&Geidai)」を実施し、令和元年度からは、文化庁の「大学における文化芸術推進事業」の助成により「2020 の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携について試行し実践する人材育成講座 Meeting アラスミ！」を開始しており、地域におけるアートプロジェクトの展開と人材育成とを一体的な事業として展開している。
- 平成 29 年度、国際芸術創造研究科の教員が、40 数名におよぶ女性アーティストとクリエイターについての批評を集めた著書『破壊しに、と彼女たちは言う——柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』を刊行した。また、刊行記念として青山ブックセンター本店においてトークイベント「女性×アート」を開催し、女性アーティストをゲストに迎え、本書について、また女性とアートをめぐって、セッションを交わした。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、特筆すべき高い質にあると判断した。

108人・組による約350点の作品を一堂に展覧する大規模な企画展である「japanorama」展は、ポンピドゥ・センター・メッセ別館（フランス）で開催され、3カ月の会期で10万人を動員し、『ニューヨーク・タイムズ』の一面を飾っている。また、大型日本文化紹介事業「ジャポニスム2018」のオープニングを飾る展覧会としてジャポニスム2018「深みへー日本の美意識を求めて」展は行われ、TECHNIART誌（フランス）が平成30年展覧会トップ10の第2位と評価している。これらの展覧会を含む「グローバル化する世界における日本現代美術の発信」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。